

スキーオリエンテーリング・クリスマス合宿 2013年12月21日-23日 長野県白馬村

JOCの承認団体となった日本オリエンテーリング協会。オリンピック入りを目指すスキーオリエンテーリング競技がシーズン最初に行った合宿はオリンピック開催地

2013年12月21-23日 長野県白馬村
スキーオリエンテーリングクリスマス合宿



スタッフの柴田が動画カメラを頭に付けて、滑る選手を追いかけながら撮影した。白馬みねがたスキー場はザクザクの大雪。



今井コーチを囲んで雪上でミーティング

オリンピックと初滑り

12月21日(土)は元オリンピック選手の今井博幸をコーチに招いて、初滑りを行った。大雪の中、選手たちと今井コーチと一緒に滑り、指導をいただいた。距離スキーのオリンピックと一緒に滑って、スキーオリエンテーリング代表選手が刺激を受け、モチベーションを高めるという意義も強かった。

今井博幸
1970年生まれ。
2002年に開催されたソルトレークシティ五輪の、クロスカントリースキー競技50kmクラシカル種目において日本人初の6位に入賞した経歴を持つ。冬季オリンピックには4大会連続出場。長野県出身。



練習後のミーティングでは、撮影した動画をプロジェクターで映し出して、フォームや動きをチェック。体の動きを実演しながら説明する今井コーチ。

オリンピック聖地を体感

12月22日(日)の練習場所はスノーハープ(長野県白馬村)。ここは1998年に長野オリンピックの聖火が灯り、クロスカントリースキー競技が行われた場所だ。広大な雪の広場が当時の開催スケールの大きさを想像させる。

選手やスタッフの中にはスノーハープに来るのは初めてという者も多かった。これはスキーオリエンテーリングの競技会が北海道・東北地域を中心に行われていることも関係している。だが長野オリンピックの息吹を伝えるこの場所を選手・スタッフとして、体験することも経験となる。会場に掲げられた五輪のシンボル、施設内に残るNAGANOのポスターやその遺構はアスリートとしてのモチベーションを高めてくれる。

スノーハープはクロスカントリースキーの練習場所としても申し分ない。選手たちはここで一日中みっちり滑り込んだ。

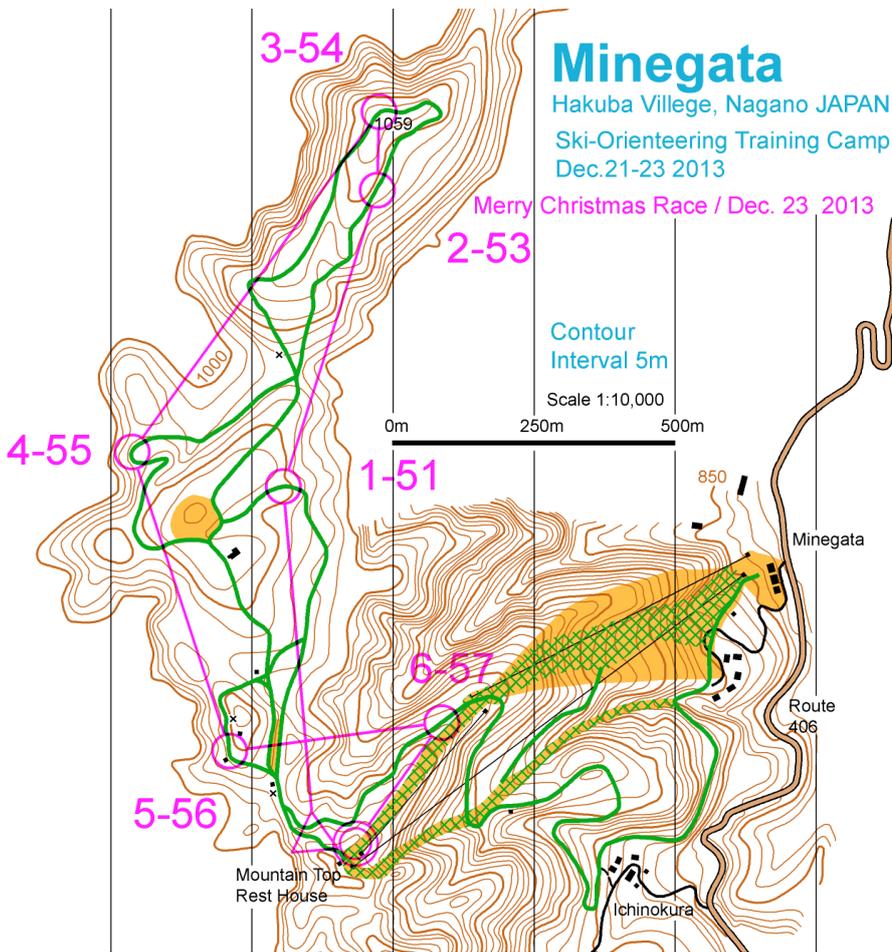
会場内にはスポーツ少年団やクロカンスキー愛好家も多数。合宿の一般参加者の子供たちも広大な雪の広場で一日遊びまわっていた。



選手紹介：堀江守弘
1981年生まれ 山形県出身 アークコミュニケーション所属 現在東京都在住

スキーオリエンテーリング！

12月23日(祝)いよいよスキーオリエンテーリング実践。白馬みねがたスキー場を舞台にこの日のために用意した0-map(オリエンテーリング用地図)を使ったレース形式の練習。スキーオリエンテーリングでは久々のニューテ



選手紹介：渡辺 幸
1994 年生 山形県出身・在住 山形大学



選手紹介：高橋美和
神奈川県出身・在住 信州大学 OG

(木村佳司)

レインだ。天気は快晴。雪のコンディションも最高。今シーズン最初のスキーオリエンテーリングの実戦となった。

レースが終わった後も、選手は繰り返し練習と称して貪欲にテレインに向かう。とにかくコンディションが良く、滑るのが楽しい。安全な場所を選んでオフピステに突っ込む。パウダースノーを下る練習にも、選手たちは挑戦していた。

シーズン初めの合宿ということで、まずは地図を見ながらの競技に慣れてもらうことが主目的だ。スキー場管理者が圧雪したピステ道だけを使用したコースで簡易的にオリエンテーリングを実施した。



白馬みねがたスキー場の歩くスキーコースは、標高 1000m ほどの里山の尾根線を利用したコース。樹林の向こう側に北アルプスの雄大な山岳風景がチラチラと見える。

2014 シーズンのキックオフ

良いスノーコンディションの中、選手は距離をしっかりと滑り込むことができた。堀江守弘選手は3日間で110kmを滑り込むことができたそうだ。初日の大雪、3日目のレース形式などの条件を考えると MAX と思える量をこなしている。

選手にとってモチベーションとなる元オリンピック選手との練習や、オリンピック競技場での練習も見逃せない。ヘッドカムとプロジェクタを使った客観的な分析も合宿ならではの気づきがあっただろう。何よりもニューテレイン、ニューマップでの実戦練習が最高の条件で実施できたことが良かった。これを弾みに、今シーズンも攻めまくって欲しい。

